

論 文 集

第 14 卷

2018年度

金沢大学人間社会学域経済学類

社会言語学演習

はしがき

本論集は、金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学ゼミ（代表 西嶋 義憲）が編集・発行する『論文集』の第14巻です。本巻には7編の論文が収められています。執筆者は、学士課程の経済学類3年生と4年生、そして人間社会環境研究科の研究生です。

巻頭論文『『やさしさ』の意味——その行動は『やさしさ』のつもりですか？——』は、3年生の共同論文で、「やさしさ」の具体的な用法をアンケート調査によって明らかにしようと試みています。

2編目から6編目までは4年生の卒業研究です。

2編目の「バイト敬語の違和感と使用について」は、「1000円からお預かりします」などのバイト敬語の違和感についてアンケート調査によって分析をしています。

3編目の「伝達表現の日英語比較」は、会話を直接引用する場合に使われる、「言った(said)」「尋ねた(asked)」などの日本語と英語の伝達動詞の出現様態をオリジナルの小説とその翻訳に基づいて比較しています。

4編目の「青春18きっぷポスターから見る対象年齢と文字表記の関係」は、ポスターに書かれたキャッチコピーの26年間の変化について論じています。

5編目の「金沢市内の3つの商店街における店看板の調査」は、言語景観研究の1つで、金沢市の特色の異なる3つの商店街の店舗の看板から、それぞれの商店街の特徴を分析しています。

6編目の「子どもに分かりやすい翻訳とは——絵本『星の王子さま』から——」は、絵本の訳文を分析することにより、子供向けの翻訳の特徴を明らかにしようと試みています。

巻末論文「映画ポスターのキャッチフレーズの日中比較のために」は、広告のキャッチフレーズに関する言語学分野の先行研究を批判的に検討し、映画ポスターのキャッチフレーズの日中比較研究への展望を述べています。

＊

今年度の学士課程の卒業生は5名です。卒業後の進路はさまざまですが、それぞれの分野での卒ゼミ生たちの一層の活躍を祈っています。

今年も4月から学士課程の新3年生が9名当ゼミにやってきます。1学年9名というのは、これまでの最多記録の7名を超えています。そして、新たに博士前期課程の院生1名を迎えます。そこに、新4年生になる学士課程の5名と、過年度生1名、博士後期課程在学中の院生3名を加え、総勢19名のまさに「大所帯」のゼミになります。論文の個別指導が大変ではありますが、また同時に楽しみでもあります。

2019年3月 西嶋 義憲

目 次

<論 文>

今尾 信之・太田 詠美・川島 信喜・小杉 拓郎・番川 達也

「やさしさ」の意味——その行動は「やさしさ」のつもりですか?—— …… 1

古保 美夏

バイト敬語の違和感と使用について…………… 15

高田 花子

伝達表現の日英語比較 …………… 31

松井 開

青春18きっぷポスターから見る対象年齢と文字表記の関係…………… 49

宮下 周三

金沢市内の3つの商店街における店看板の調査 …………… 65

渡邊 莉音

子どもに分かりやすい翻訳とは ——絵本『星の王子さま』から—— …… 91

王 珏奇

映画ポスターのキャッチフレーズの日中比較のために

——先行研究の批判的検討—— …………… 103

*

過去および現ゼミ生の論文タイトル…………… 117

金沢大学社会言語学演習紀要『論文集』第15巻執筆要領（簡略版）…………… 129